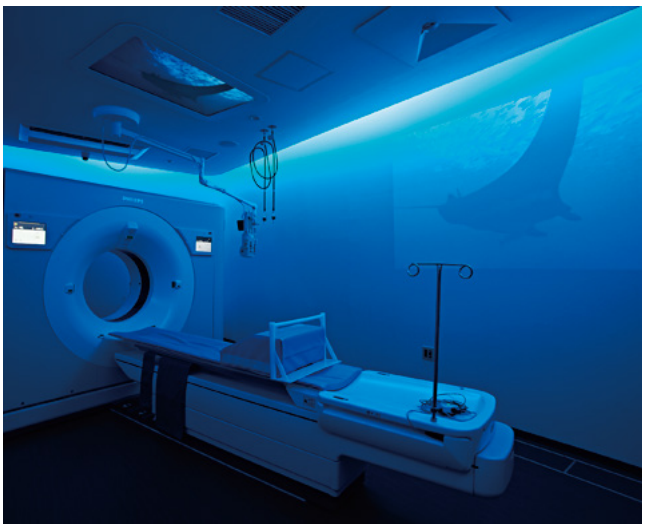
PHILIPS

Healthcare

User Report

患者さんに優しく、安定的な検査を実現
環境ソリューション『Ambient Experience』

患者さんの不安軽減、コミュニケーションの円滑化で見据える医療の未来



環境ソリューション
『Ambient Experience』とは

『Ambient Experience』は患者さんの不安軽減、スタッフの満足度向上、ワークフローの改善、ほかの施設との差別化を実現する環境ソリューションです。間接照明、LED照明、壁面プロジェクター、天井モニター、音楽が一体化し、患者さんの好みに応じた検査環境を創ることができます。これにより検査に最適化した空間にリラックス効果をもたらし、処置中のコミュニケーションが円滑に。患者さんとスタッフとの間にうまれる信頼関係が、スムーズで安定的な検査につながります。今後はCT、MRIをはじめ、多彩に展開していく予定です。また、ライトの色や映像のストックも拡充させ、より患者さんの好みに応じることのできるシステムへと進化します。次ページからは、実際に導入された東京都健康長寿医療センター（東京都板橋区栄町35−2）のレポートをお届けします。

お話を伺った方

スズキ ユタカ

鈴木諭貴 氏

東京都健康長寿医療センター
放射線診療科 係長

海外と違って日本の医療現場は無機質です。
環境面のアプローチでより良い医療のあり方を
模索したいと考えています。

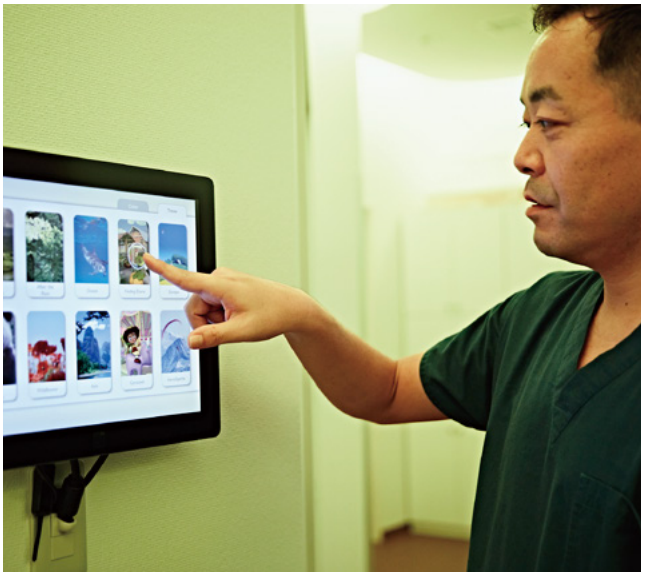
患者さんの不安減少と検査品質の向上を目指して

医療に従事している方ならご承知の通り、病院に喜んで足を運ぶ方はいません。私たちのCT検査室も例外ではなく、何をされるか分からない状況にストレスを感じている方がほとんどです。とくに外国人や認知症を抱えている患者さんは顕著で、混乱されて暴れることで心拍数があがり、正確な検査が困難だったケースも少なくありません。また、エビデンスもあるように、ストレスによって造影剤の副作用が出現する率が高まることも課題でした。こうした観点から、現場主導で改善につながる取り組みを重ねてきました。無機質な白い壁や威圧的な検査機器にペイントをほどこすといったアプローチもそのひとつです。しかし、期待を超える効果は実感できませんでした。患者さんからも「天井は普通なんですね」と指摘されたように、入室した瞬間に明るい気持ちになったとしても、検査で横になれば視線は上に向かうので目に入らなくなってしまうという限界があったのです。処置の間も患者さんにリラックスしていただき、ミスのない検査を実現したい。同時にスタッフの負担も軽減したい。そんな思いを強くしているときに、Ambient Experienceに触れる機会があり、これなら理想の検査環境を整えることができるのではないかと導入を推進しました。

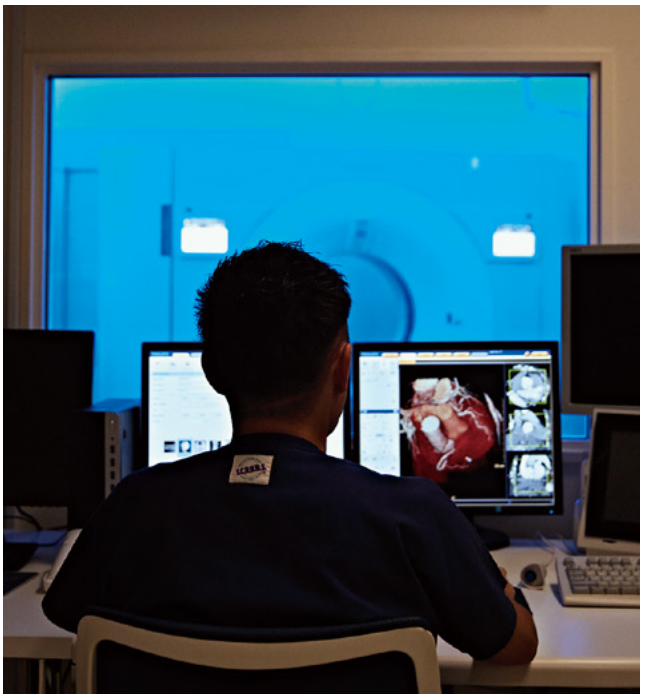
東京都健康長寿医療センター 放射線診療科 専門部長 下地啓五医師、技師長 海野泰 診療放射線技師

検査環境で創る患者さんとの一体感

導入にあたり懸念点としてあげられたのは、工期でした。オプションも含めたフルラインナップを導入するには相応の準備期間が必要で、反対の声も少なからずあがりました。そしてもうひとつが、操作性です。複雑なものだと、かえって処置の妨げになりかねないからです。しかし、結果的には問題はなく、消極的だったスタッフも「導入して良かった」と積極的に利用しています。タッチスクリーンによる操作性の良さも好評です。看護師からは「患者さんに寄り添い、いかに短い時間で信頼関係を築くかが私たちの役割。そこには検査技術だけでは越えられない難しさがあったのですが、画像のおかげですぐに打ち解けられるようになりました」「画像を見ているとリラックスされるので、注射などの処置がスムーズになりました」といった声があがっています。また、患者さんの中には「これが入ってから、CT検査が楽しみになったよ」と言ってくださる方もいます。いちばん嬉しかったのは、何度もお会いしているのに無表情で言葉を交わすこともなかった患者さんが「この画像、必要ですか?」と突っ込んでくださって、それをきっかけに処置中の一体感が生まれたこと。後日、廊下ですれ違ったときなども笑顔で話しかけてくださり、嬉しかったですね。



スマートフォン感覚で操作できるタッチスクリーンでテーマを設定。間接照明、LED照明、壁面プロジェクター、天井モニター、音楽によってリラックス環境を創造する。



追加機能の実装で来院促進効果を期待

Ambient Experienceには、患者さんとの距離を縮める以外の効能も多くあります。画像の話題で打ち解けた後だと患者さんの意識混濁にも気づきやすいですし、我慢しがちなご年配の患者さんでも、打ち解けた後だと「気分が悪い」といった申告もしやすいようです。こうした効果を実感する中で巡らせるのは、Ambient Experienceの付加価値で来院率を高められないだろうか、という思いです。たとえば心的負担の大きい乳がん検診を受けるモチベーションにならないか。それにより病気の早期発見に寄与できないだろうか、といったことです。あくまで個人的な見解ですが、その可能性を秘めた装置ではないかと思っています。だからこそAmbient Experienceにはさらなる進化を望みます。すでにリクエストしたことですが、処置の説明が各国の言語で表示される機能を実装してほしい。言葉がわからず不安な方をリラックスさせられるだけでなく、スタッフの負担を軽減しながら安定的な処置につなげられます。それと、日本の四季の画像を取り入れてほしい。自然と触れ合う機会が減っている長期入院中の患者さんにとってはエンターテイメントと同じ価値を提供できると考えています。Ambient Experienceを通して医療現場を、より患者に優しく、スタッフにとっても満足度の高いものにできるという手応えを感じています。

検査室の声

検査室に欠かせないツールとして今後の展開に期待します。

わたしたち看護師の役目は、患者さんと放射線技師の間に立ち、短い時間で信頼関係を築くこと。その際、Ambient Experienceの効果は大きく、技術だけでは越えられない心の壁を超えやすくなった実感があります。また、スタッフ同士のコミュニケーションにも作用していて「○○さんは、このテーマが好き」「今日のテーマは誰が選んだの?」といった話題を提供してくれます。もはや検査室に欠かせないツールとなっている中、これからの展開で期待するのは、お花の画像が充実すること。入院されていてお花見ができない患者さんに桜の画像をご覧いただきながら「元気になって来年はお花見にいきましょうね」というようなお声がけができたらと思うんです。

東京都健康長寿医療センター 看護部　徳原麻美 看護師、山﨑愛乃 看護師

製造販売業者
株式会社フィリップス・ジャパン
〒108-8507 東京都港区港南 2-13-37 フィリップスビル
お客様窓口　0120-556-494
03-3740-3213
受付時間　9:00～18:00
（土・日・祝祭日・年末年始を除く）
www.philips.co.jp/healthcare

改良などの理由により予告なしに意匠・仕様の一部を変更することがあります。あらかじめご了承ください。詳しくは担当営業、もしくは「お客様窓口」までお問い合わせください。記載されている製品名などの固有名詞は、Koninklijke Philips N.V.の商標または登録商標です。

© 2019 Philips Japan, Ltd.

1831445
101802001-FK　Printed in Japan